

2021年1月4日

住友生命保険相互会社

2021年社長年頭挨拶（役職員向け挨拶要旨）

新型コロナウイルスが日々の生活や経済活動に多大な影響を及ぼす中、お客さまを支えるため、共に働く仲間を支えるために尽力いただき感謝申し上げます。迎えた2021年は、変化にいち早く適応することで、ピンチをチャンスに変え、大きく飛躍する1年にしたい。

今年、これまで取り組んできた「ブランド戦略」が10周年を迎え、大きな節目の年となる。この10年、「理想の会社」を実現するために、「人の価値」に磨きをかけるとともに、「スミセイならではの価値」を追求してきた。この成果もあり、お客さまのため、社会のために仕事をするという意識がさらに高まり、課題も残されてはいるが、確実に前進している。

また、“住友生命「Vitality」”の導入は、「ブランド戦略」における最大の変化である。「人が人を支える価値」をベースに「Vitalityの価値」を融合し、スミセイならではのモデルを確立することで、お客さまの健康と幸せな日々を支える会社の実現を目指していく。

その実現に向けて、特に意識してほしいことを2点伝える。目新しいことではないが、大きな転換期だからこそ、改めて原点に立ち返って取り組んでほしい。

1. 変化に対応する「チャレンジ」

お客さまの志向や生活様式が大きく変化する中、当社は「人の価値」にデジタルを融合した新たな顧客接点のあり方の実現に挑戦している。「デジタルツールの活用」、「お客さま接点業務に注力するためのマネジメント変革」、「業務の抜本的見直し」これらは全て大きな挑戦である。取組みの過程で様々な困難もあるだろうが、根気強く、創意工夫を重ねながら、自身で最初の一步を踏み出して前向きに取り組んでほしい。

2. 「社会の視点」を意識すること

「住友生命グループ行動規範」に明示しているように、社会の常識と当社の「当たり前」が乖離していないか。あるいは、社会から求められる品質の水準がますます高まる中で、私たちの行動もきちんとレベルアップ出来ているのか。そうした「社会の視点」を踏まえた行動を実践する職員を一人でも多く増やしていくことが、「社会になくてはならない保険会社」としての住友生命ブランドを確立するためには、地道だが最も確実な方法だと思う。この「社会の視点」を強く意識した行動を実践していくことを期待している。

新型コロナウイルスの収束が見えない中だが、自身の健康に十分に留意しつつ、「理想の会社」の実現に向けて、共に頑張っていこう。

2021年1月4日 取締役 代表執行役社長 橋本雅博